

第10期 松戸市緑推進委員会

第8回委員会議事要録

1. 日時 令和元年8月6日(火) 15:00~17:00

2. 場所 松戸市役所 市民サロン (新館5階)

3. 出席者

○緑推進委員

柳井重人・木下 剛・小谷幸司・小嶋 功・高橋 清・高橋盛男
石川静枝・上野義介・高橋 節・藤田 隆・森 令子・横山 元

○松戸市

田辺久人 (公園緑地課課長)
青柳洋一 (みどりと花の基金理事長)
米澤和宏 (みどりと花の基金事務局長)
木原 茂 (公園緑地課長補佐)
岡田 隆 (公園緑地課長補佐)
関根真人 (21世紀の森と広場管理事務所主任主事)

○兼事務局(みどりと花の課)

岸 秀一(課長)・三末容央(専門監)・北川茂和(課長補佐)・稲吉かなえ(主査)
井上 毅(主任主事)

○LAU 公共施設研究所(松戸市緑の基本計画策定委託受託者)

牧野・吉岡

事務局より本委員会の成立について、委員14名中12名の出席により成立している旨報告あり。

○傍聴 6人

4. 議事次第

1 開会

1 議事

- 1) 議事要録の確認について
- 2) 緑の基本計画策定について
- 3) その他

1 連絡事項等

1 閉会

事務局

議事要録について、これまで委員会の議事要録は情報公開担当室を通じて公開していたが、第10期委員会においては、緑の基本計画の策定に関わる議事が中心となるので、策定の経過報告として、「基本計画の骨子」「基本方針」「市民3000人に行ったアンケート調査結果」と合わせて、「緑推進委員会の議事録」についてもホームページで公開する。公開開始は今半月を予定している。その他必要に応じて関係資料はホームページで公開する。

松戸みどりと花の基金新理事長就任挨拶

松戸みどりと花の基金理事長

理事長の青柳と申します。前回の緑推進委員会では前理事長の古賀が出席させていただきましたが、6月に私が理事長に選任されましたので今後私が出席させていただきます。また、2年ほど前には街づくり部でこの委員会に出席させていただいておりましたので、再びお世話になることになりました。よろしくお願いいたします。

議事 1) 議事要録の確認について

事務局

議事録の内容について 事前に1点 平岡委員よりご指摘がありましたのでご報告いたします。前回委員会で、平岡委員から「SNSを使った広報の仕方等について」のご発言がありましたが、それについて意味の分かりづらい表現となっておりますので、修正させていただきました。皆様に配布しました修正表（修正前・修正後が記載された対象表）のとおりとしましたので、ご一読ください。事務局からは以上です。

会長

これ以上無いようであれば、平岡委員の指摘事項を修正した書類をもって議事要録とする。

議事 2) 緑の基本計画策定について

<配布資料の確認と本日の議題について>

事務局

先ずお手元の資料を確認させていただきます。

資料 1として「スケジュール表」。

資料 2としてみどりの市民活動に関するアンケート調査結果等が3種類。資料 2-1「みどり活用団体」、資料 2-2「千葉大学みどりの回廊ワーキンググループ」、資料 2-3「松戸ふるさと森の会」からの意見書。

資料 3として6月29日に開催した松戸みどりのフォーラムの報告資料が2種類。資料 3-1「松戸みどりのフォーラム」の報告、資料 3-2「松戸みどりのフォーラム」の今後の展開に向けて。

資料 4としてみどりの基本計画の検討資料が2種類。資料 4-1 「松戸みどりの基本計画」基本方針 3.4 一覧、資料 4-2 「松戸みどりの基本計画」検討資料 一式。

以上が本日の配付資料です。

では本日の 緑の基本計画 に関する議題についてご説明いたします。

本日の議題は大きく分けて3つございます。

1つ目は、みどりの市民活動に関するアンケート調査の結果の報告と、「松戸ふるさと森の会」、こちらは樹林地の所有者の方々が中心となり組織された山林の保全を目的とした会で、この会より意見書が提出されましたのでその内容の報告をさせていただきます。なお、「ふるさと森の会」は小嶋委員が会長を務めていらっしゃいます。後ほどお話を伺えればと思っております。

2つ目は、みどりの基本計画の内容の審議になります。今回は、「松戸みどりのフォーラム」の報告がありますので、それと関係性の高い、基本方針 3「みどりの市民力を豊かにする」と基本方針 4「みどりのライフスタイルを楽しむ」についての審議をお願いします。

3つ目は、6月29日に実施しました「松戸みどりのフォーラム」の報告と、「みどりのサロン部会」の報告です。

では、議題に入らせていただきます。

まず一つ目の議題ですが、みどりの市民活動に関するアンケート調査の結果の報告です。こちらは、「みどりのサロン部会」の発案のもと市民活動団体へ意見の聴取を行ってきたものです。前回までに、「里やま活動団体」、「公園等管理活動団体」、「花壇づくり活動団体」の調査結果についてご報告しましたが、本日は、子育て団体などの「みどり利活用団体」と、地域の方々と交流を深めながら活動を行っている「千葉大学みどりの回廊WG」のアンケート調査結果についてご報告します。LAU 牧野から説明します。

<みどりの市民活動に関するアンケート>

LAU

「みどりの利活用団体」では、15団体に配布し7団体から回答があった。

「1.活動場所」は公園・キャンプ場や野営場を含む樹林地。

「2.活動の内容や目的」は、子どもたち・青少年の成長や地域住民の交流・居場所づくりを目的とする。

「3.サービスを提供する場合の対象者（参加者）」は、主に親子・子どもを対象としている。

「4.「緑」に関わる活動の内容」は自然とふれあいながら、主に遊びや作業体験、キャンプ等を行っている。

「5.活動に「緑」が含まれている理由」では、自然の中で活動することを目的としていることから、選択肢②の自然体験が最も多く、みどりの機能を生かしたい意志が見て取れる。

「6.「緑」に関わる活動場所として、今の活動場所を選んだ理由」では、「緑が多い」が多かった。「近くの活動しやすい場所」という理由もあげられていた。

「7.活動場所です満足していることや不満なこと」として、

- ・満足度として、自然の中での遊びや自然体験、工作、キャンプができる。関係団体の理解や協力が得られている。
- ・不満なことでは、遊具の老朽化やごみや猫の糞尿が多い。防犯のために草木が刈られて緑の量が少ない等。

「8.参加者の意見や感想」として、

- ・満足していること は環境学習やリラックスできることが多い。
- ・不満なこと はトイレの状況や虫が多い。
- ・要望 は自然の中での遊びや体験（木登り、秘密基地ごっこ、ツリーハウスづくり、畑体験、野草の料理、キャンプ）

「9.自主的の公園利用のルールによる使いやすさについて」では、ルールをつくることに期待できるが4団体で、期待できないが3団体。

- ・どんな取組をやってみたいか は要望とほぼ同様の意見で、常設の冒険遊び場づくり、宿泊ができる自然と野外活動一体化した公園、ツリーハウスの作成。
- ・活動のために必要なこと はスペースを広くする、場所を増やす、常設する。専門的な知識や技術を持った人材を増やす。資金提供やPRする仕組みが必要。

「10.催し物等のPRの方法」では、インターネット、パンフレット、口コミ等いろいろあった。

「11.活動団体の仲間の集め方」は、人づてあるいはイベントを通して募集する団体が多かった。

「12.行政に期待する施策や支援」への意見では、

- ・緑の利活用の観点を盛り込んでほしい。自然とふれあう機会が増えて意識が高まり、子どもたちの感性を育み生きる力を養う機会となる。利活用の取り組みへの金銭面や制度運用などの支援。21世紀の森と広場などにキャンプ場を開設。
- ・樹林地の保全に関しては、所有者や近隣の理解を深める橋渡し。保全をするための知識や技

術、人材の育成。

・植栽行事の企画（自分が植えた木を見守りたい）。緑がある場所の位置や使い方について情報発信。

「千葉大学みどりの回廊WG」へのアンケートでは、7団体に配布し6団体から回答があった。

「1.活動場所」では、松戸キャンパス内や周辺・松戸駅周辺や近隣市でも活動。

「2.活動内容や目的」は、専門的知識や技術の習得だけでなく、緑を通じて人とのコミュニケーションや地域づくりを目的とした活動。

「3.活動の内容」は、地域と関わりながら活動。

「4.活動を始めたきっかけ」は、研究室のプロジェクトを出発点として発展したグループが多い。

「5.活動を通じて得られるもの」としては、知識や技術だけでなく地域との繋がり・交流等、学生生活では得られないものが得られた。

「6.活動を続ける上での課題」としては、学生であるが故に、人員の確保や活動の引継ぎ、継続、参加メンバーの固定化、モチベーションの維持、活動成果の表現の困難さ等や地域と関わるが故の地域との関係による活動の難しさがある。

「7.課題解決のために取り組んでいること」では、みどりの回廊ワーキンググループ中でのメンバーが柔軟に参加できるような工夫。

「8.活動をアピールする取組」では、インターネットの他、多岐にわたっていた。

「9.連携している団体」では、みどりの回廊ワーキンググループごとの柔軟な取組をするとともに、自治会や子ども会等地域団体等と連携しながら取り組んでいる。

「10.今後連携したい団体」として、里やま活動団体、自然遊び、自然を活用した商品・作品をつくる技術を持つ団体、園芸技術や栽培技術を持つ団体等。

「11.活動する仲間の集め方」では、ビラ配り、歓迎会等で学生への呼びかけをしている。

「12.行政に期待する施策や支援」への意見では、プラットフォームとして、様々な活動を行う市民団体の交流や協働を促進することや、活動への価値づけ、植物の提供等を期待している。

会長

みどりの利活用団体とみどりの回廊WGの活動内容について、補足説明をいただきたい。

LAU

千葉大学みどりの回廊WGは「戸定みんなの庭の会」「HGC」「エディブルウェイ（食べられる植物）」「岩瀬ハーブプロジェクト」「援農お宝発見隊」「公共サイン研究会」から回答をいただいた。みどりの利活用団体は子育て関係団体が3団体、ボーイスカウトの団体から回答をいただいた。

会長

ここまでの説明は、このような利活用団体や回廊WGに対してのアンケート結果の説明だった。

<樹林地の保全に関する意見書について>

事務局

続きまして、小嶋委員が会長を務めていらっしゃいます「松戸ふるさと森の会」より、松戸市へ意見書が提出されましたので、ご報告いたします。

まず、「松戸ふるさと森の会」についてご説明いたします。松戸ふるさと森の会は、人口増加や宅地化が進む中で、山林が急激に減少することに危機感を持った山林の所有者が主体となり、「残された緑を守り、貴重な自然環境を未来へ継承したい」という思いから平成14年に発足し、樹林地の保全や緑化の啓発活動等を行っており、オープンフォレスト in 松戸の構成員にもなっております。

内容についてご報告いたします。

まず、「1 樹林地の保全管理の現状について」です。

樹林地を、里やまボランティアへ活動地として提供していただいている所有者の方からのご意見ですが、「所有者とボランティアがお互いの考えや立場を理解し意思疎通を深め、上手く各々の役割を果たすことができている、ボランティアの方々に日々助けられながら樹林地を保持しています。」とのご意見があります。一方、落ち葉や伸びた枝の苦情等が多く寄せられ、「苦情をあったからと言って、大きく生長した樹木を伐採しなければいけないのか。」など、その対応に苦慮しており、「樹林地を持ち続けることが難しい。」と感じているというご意見もあります。次に、「2 現状の課題と対策について」です。

「ご自身で管理しきれなくなった樹林地を里やまボランティアの皆さんの活動地として提供し、所有者とボランティアと共に保全管理を行う仕組みは、お互いの意向に沿う良い仕組みであり、今後もできる限り継続されることを希望します。この仕組みを継続していくことが必要であり、何かしらボランティアの方々にバックアップをする方法を考えていきたい。」とのご意見があります。また、「樹林地を維持管理するにはどうしてもお金がかかるので、その費用を森で生産したタケノコなどを売るなどして賄いたい。これからは樹林地として存在するだけの価値ではなく、プラスアルファの価値、森の生産力についても考えていく必要がある。」とのご意見があります。「行政主導で緑の保全を進めていくのではなく、市民と行政が一体となってみどりのエリアマネジメントを考え、この取り組みを共に進めていければよいのではないか。」というご意見もありました。

次に意見書に合わせて、ふるさと森の会が行った樹林地保全アンケート調査結果の一部についてご説明いたします。このアンケートは平成 27 年にふるさと森の会の会員 68 名を対象に行ったものです。68 名のうち 33 名の方から回答をいただき、回収率は 48.5%でした。

まず、「樹林地の保全の意向」については、「保全したい」(36%)と、管理等の助成を受けるという「条件付きで保全をしたい」(55%)を併せると約 9 割の方が保全していきたいと考えていらっしゃるようです。ただし、「樹林地を管理することを負担に感じているか？」については、「負担に感じている」(36%)、「どちらかと言えば感じている」(55%)合わせると約 9 割の方が樹林地を管理することに負担を感じていらっしゃいます。保全したい気持ちはあるけれど、相続税や固定資産税などの税問題や樹林地の維持管理全般についてが大きな懸案事項となっております。最後の質問の宅地化した方へのご質問ですが「宅地等に転用した理由は？」の問いに対しては、「相続が発生したから」「生活上の理由」「土地の有効利用」という回答となっています。以上が「松戸ふるさと森の会」からのご意見とアンケート調査の結果です。

「ふるさと森の会」の会長の小嶋委員より、何か補足等お話しただけですでしょうか。

委員

会員の総意は「みどりを残したい」という思いであるが、税金、特に相続が現実問題としてある。「ふるさと森の会」は平成 14 年に設立後 17 年が過ぎほとんどが代替わりをしており、一度は相続の関係で相当多くが手放され、住宅などに転用された。

みどりをそのまま残すことで最も大きな問題はゴミの不法投棄があるが、里やまボランティアの管理に委ねうまくいっているところは非常にきれいに管理できている。森自体の管理もうまくいっているところもある。しかし全体としては税金の関係だけでなく、ケヤキの枝や桜の花びらが入ってくるだけでも苦情が出る現状。苦情は新しい住民より、昔から住んでいる人から聞かれる。新住民は豊かなみどりに惹かれての選択でみどりに対する理解があるが、昔からの住民はこれまでは「お互い様」であったが片方が一旦宅地化されてきれいになると、森の枝や葉っぱの苦情は昔からの付き合いがあったが故にかえって厄介なことにもなる。

「みどりを残したい」という気持ちはあっても、樹木1本の枝おろしだけでも相当の費用がかかり、固定資産税以上の支出となる。一度切ってもその後3~4年後ごとに費用がかかり続ける。意見書は市で面倒を見てほしいということではなく、そのような現状を知ってもらい何らかの方法で市・行政とタイアップできればよいという思いで提出した。

会長

「アンケート調査結果」と「意見書」について質問はないか。

委員

利活用団体のアンケート結果の参加者の意見や感想に、「不満なこと」として、「トイレが和式の汲み取り式であること」とあるが、どこのことか。

委員

金ケ作自然公園の仮設トイレだと思われる。

委員

最近和式トイレを使えない子供が増えているという大きな問題であって、できれば洋式の水洗式へ変更すべきで、ワンランク上のみどりにつながる。小さなことだが大切なこと。

委員

そこはおそらく下水が通っていないのではないかと。単独の設備をつくらなければならない。

会長

最近、各地の公園の指定管理等の委員会に参加することが多いが、公園のトイレを洋式にすることで利用者の満足度に関わってくると提案書に述べられている。緑地、公園、都市公園その他の施設における当たり前の設備になっている。

公園緑地課課長

今年度、金ケ作自然公園を含め簡易水洗を設置する事業を行っている。しかし、「ぽっとん便所」を未体験の子どもにとっては一つの体験ともいえる。

委員

千葉大WGのアンケートに「連携したい団体」として「園芸技術や栽培技術を持ち団体など」が挙げられているが、松戸花壇づくりネットワークでは、毎年夏に中学生から大学生までを対象に、ボランティアカレッジの定例開催を松戸市社会福祉協議会を通じて行っている。今年も8月の20日から5名が育苗圃で受講することになっている。

会長

大学では知識・理論と技術は学んではいるが、それを実践するときのサポートや付き合ってくれる団体を求めているのではないかと。連携したい、学びたい人に如何にマッチングさせるか、情報の発信を行っていくかが課題。

委員

自主的な公園利用のルールによる使いやすさについて「どんなことをやってみたいか」の回答は、各団体の主宰がメンバーの総意として回答していると思うが、遊び場づくりやツリーハウスづくり、清掃活動に関わりを持ちたいなど、自分がトライしたいという気持ちが感じられる。既存のみどりの利活用に止まらず自分たちでクリエイティブしたい強い意志は、緑の基本計画の中のライフスタイルを楽しむところの受け口として重点としたい。

会長

樹林地のアンケートについて、1~2は単数回答、3~6は複数回答でつくられている。複数回答の場合は母数を回答者数にする必要がある。例えば「相続が課題」は28%となっているが所有者の28%ではなく、いろいろな多くの課題が挙がっていれば90%になるかもしれない。課題の

重大さを見るには修正をして議論の参考としたい。

委員

樹林地の保全に関する意見書について、管理コストと税の問題は大きな問題としてあるが、対象の樹林地は既存の制度の枠には当てはまらない土地なのか。探せば既存の税の優遇措置や既存の制度の対象とならないのか伺いたい。

委員

昔から宅地内に生育している巨木に関しては市から1本2,000円の助成がある。また一定の面積を有する樹林地についても助成はある。

委員

制度の適用を受けている樹林地もあるが、それだけでは十分ではないということか。

委員

実際の管理費まではとても出ない。

会長

現在、都市緑地法の特別緑地保全地区と条例の保全樹林地地区、保護樹木の既存の枠組みに当てはまる部分はある。市民緑地はあるか。

事務局

ありません。

委員

この後の議論として、金銭的な支援の仕組みや新しい制度の枠組みについて議論を進めることができればよい。

委員

平成14年相続税の軽減に向けて「ふるさと森の会」を発足した。国とのパイプを意図し先に発足した市川や柏と連携し団体をつくったが、なかなか難しい。

会長

松戸市は他の自治体と異なり、保全だけでなく公開している部分をどう評価するか、ボランティア団体が管理しているところをどうサポートするか。王道は相続税や買取へと話は進んでいくが、今の松戸の良さを生かして新しい制度展開ができるかが今後の議論となる。

<松戸みどりのフォーラムについて>

事務局

次に「松戸みどりのフォーラム」の報告をさせていただきます。

「松戸みどりのフォーラム」は、「松戸市みどりの基本計画」の策定方針についてご説明するとともに、団体同士の相互理解と交流を目的に、6月29日（土）午後1時より千葉大学園芸学部「100周年記念戸定が丘ホール」にて行われました。

当日は、小雨がしとしと降るあいにくの空模様でしたが、31団体、70名の方々にご参加いただきました。「みどりのサロン部会」の方々には毎月1回の打合せを行い、企画から運営に至るまで全般的にご尽力いただきましたことを合わせてご報告いたします。

当日は、12時からみどりの行動会議の方々の協力を得て会場の準備をはじめ、1時より参加者の受付を開始しました。はじめの1時間程度は、会場内に展示した各団体のパネルなどを見ながら、お互いの活動内容のお話をするなど、自由にコミュニケーションを図っていただきました。2時頃から千葉大学みどりのワーキンググループの5団体の活動発表と、みどりと花の課から「松戸市みどりの基本計画」の策定方針の説明、3時頃から市民活動団体11団体の活動発表をしていただき、最後に緑推進委員会の柳井会長の総括をもって閉会となりました。

フォーラムの際に参加者から出た意見について報告します。

活動をしていて何が一番楽しいかについては、スキル・経験・活動・世代など異なる団体が集まることで、自分たちだけでは考えられないアイデアや活動が生まれる、また他の団体の活動を知ると新たなモチベーションにもつながる、との意見がありました。また千葉大学の WG からは、活動を通して地域の人たちとの会話が生まれコミュニケーションが図れるようになったことが楽しいとのことでした。

そして、会の締めくくりにいただいた柳井会長の挨拶では、「松戸みどりのフォーラム」の 3 つの目的についてお話しいただきました。1 つ目は、市民アンケート調査から分かるように、みどりの活動の認知度はとても低い。多くの人にみどりの活動について、また今策定している緑の基本計画についても知っていただきたいということ。2 つ目は、他の団体の活動を知ること、そして連携しみどりの活動をつなげていくこと。3 つ目は、計画は実現しなければ意味がなく、計画の段階から実現に向けて努力すること。以上がフォーラムの目的であるとのお話しをいただきました。

<みどりのサロン部会からの報告>

事務局

関連がありますので、みどりのサロン部会の報告もさせていただきます。サロン部会では、みどりのフォーラムの今後の展望について話し合いをしております。新しいみどりの基本計画には、今後のフォーラムの展望が何かしら目に見える形で表現をして盛り込んでいきたいと考えております。この検討につきましては、まだ少々時間を要しますので、本日はなく 11 月の緑推進委員会での報告を予定しております。では本日は中間報告として、サロン部会座長の高橋委員よりお願いいたします。

委員

フォーラムの手応えはあったと思う。参加は 31 団体でスタッフを含め 70 名以上がよく集まってくれたと思う。ただ、短い時間に活動紹介をするスタイルでは「語りきれない」「もう少し聞きたい」という物足りなさがあったかと思う。また参加してくれた団体が何を期待してきたのかはつかめていないところはある。しかし、会の最後に今日のフォーラムに参加して「何か得たものはあったか」「新しい発見があったか」の質問に、ほぼ全員が手を挙げてくれた。交流の場・隣の活動を見ることに何かしら期待感はあると思う。どの団体にとっても活動の継続の維持は大きな問題としてあり、ともすれば活動の目的以上に活動の維持が目的となる状況もある。このようなフォーラムの継続はこのままでは難しく、仕組みを考えなければいけない。この考え方を「緑の基本計画」にどう反映させるかを考えていく。基本的には樹林地保全是ワンジャンルグループではないので、ここに集まったグループの連携ができれば、例えばマッチングによってどんなものが生まれるかを想定しながら考えていく。

会長

みどりと花の課長も出席されていたが何かないか。

みどりと花の課課長

松戸みどりのフォーラム開催へのご尽力に感謝します。

最も感じたことは、各団体がそれぞれいろいろな課題を抱えているとは思えないような、楽しそうに語っていること。会の目的の一つの横の交流や関係について、例えば自分たちが管理している木の生育に関する悩みを、この会で知り合った方を通じアドバイスを受けられたという話を聞き、非常に有意義な時間であったと推察された。

会長

私が最後に話した内容は、初めてのフォーラムがなぜ大切か、期待していることを述べたもの。松戸で初めて開催されたことは非常に意義深く、これからどう展開させていくか。「連携」や「つて」が何かに繋がっていく中で、いくつかのプロジェクティブな試みを通してつながっていくマッチングの話と、全体としていろいろな活動が総覧できるという2つの役割となる。

事務局

次に基本計画についてです。まず今後の策定スケジュールからご説明いたします。大きなポイントをご説明します。昨年度3月に骨子（案）を作成しましたが、年内12月中には計画の原案として取りまとめ、その原案づくりの過程を緑推進委員会で審議していただきます。その後、庁内の策定委員会等を経て修正を行い、来年3月には素案をつくる予定としています。では、今後緑推進委員会でどのように審議を進めていくかについてご説明いたします。本日8月6日を含め12月の原案作成まで、委員会は4回開催する予定です。本日はその中で、特に基本方針3と4について主に審議をいただきます。次回9月27日の緑推進委員会では、基本方針①「暮らしを支える緑を築く」と基本方針②「ワンランク上のみどりをつくる」について審議をお願いする予定です。12月の委員会では、今までの審議の内容をとりまとめ、事務局にて作成する原案について審議を行います。この「原案」までが一区切りとなります。2月の委員会では、修正した原案について審議を行い、更に修正を行った後、3月に素案となります。以上が今後のスケジュールになります。それでは、内容についてLAU牧野から説明します。

<松戸しみどりの基本計画 基本方針3・4について>**LAU**

先ず、基本方針③の「みどりの市民力を豊かにする」については、1つ目を3-1「みどりの市民力を高める」とし、

①みどりの仲間づくり 活動の継続には同じ目的を持つ「仲間」がいることが重要であることは、活動団体へのアンケートの結果からも明らか。仲間をどう増やしていくかとしては、①活動団体への参加の促進や新たな仕組みづくり、②法人化も含めて、活動団体そのものの体力・組織力を強化。

②表彰制度の実施 活動団体等の取り組みへの意欲を高めるために優れた活動を表彰・顕彰していく取り組みをしている。松戸市緑の大賞の創設等の位置付け。

③人材の育成 現在行われている「里やまボランティア入門講座」「花づくり体験講座」の継続とPR。また、人材育成に関わるようなその他講習会の実施。

④みどりに関する調査・研究の継続 大学や企業との連携によるみどりの資源に関する調査・市民アンケート調査を定期的・継続的に行い、その成果の蓄積・共有する体制が必要。また市民参加のモニタリングも考えられる。

2つ目は、3-2「みどりの市民力のネットワークをつくる」とし、

①活動団体の連携 里やま応援団、花壇づくりネットワーク、みどりの回廊はある程度ネットワーク化されているが、今後異なるジャンルを含めて連携を図っていく。活動団体へのアンケート結果にもあるように、何れの団体も活動を困難にしている理由として高齢化と人材不足が挙げられており、それをどう解決していくかの観点も必要。みどりのフォーラムの継続・活性化を含め検討していく。情報のネットワークづくりとして、情報の共有化や一元化のためのプラットフォームをつくっていくか考える。

②活動の連携を支援する体制づくり 個々の活動団体を結びつけるような中間支援的な役割をどう育成していくかで、(公財)松戸市みどりと花の基金の活用・強化や中間支援を目的とした活動団体の強化が考えられる。

次に、基本方針④の「みどりのあるライフスタイルを楽しむ」では、「みどりの市民力」をより大きくしていくためにも、市民や子どもを含めたみどりの理解者や新規の顧客をどう増やしていくかをテーマとしている。

1つ目は、4-1「みどりを生かした多様なライフスタイルを広める」とし、アンケート結果では、市民は散歩や花見等の身近な「みどり」と関わってはいるが、決して多い数字になっていない。それでもみどりを楽しみたい意向はかなり強い。市民がそれを特別ではなく暮らしの中で気軽にやってみようという気運を高める必要がある。

①みどりと遊びの創造 子どもたちのライフスタイルである外遊びをどう演出していくか、場所の確保だけでなく遊びを支えるプログラムをどうセットしていくか。松戸市内では多くの遊びを支える利活用団体があり、子育て関係団体、児童館、子ども館で行われている活動の継続や各団体同士の連携を進めていく。

②みどりとふれあう身近なきっかけづくり みどりに関わりたい意向は多岐にわたっている。アンケート結果から、活動団体の方にとって地域の人々からの感謝やねぎらいの言葉などの声が非常に大きな励みとなっている。暮らしの中で気軽に実践できるみどりづくりや、まちの魅力づくりに向けたみどりづくりを積極的に発信していく。

例えば、野菜づくりや健康づくりで「●みどりのあるライフスタイルの紹介」をする。

例えば、丸の内の道路を100時間限定で芝生を敷きみどりの空間を創り、たたずめるようにしたように、社会実験で「●みどりの可能性のアピール」をする。

例えば、みどりにふれあいながらのハイキングや散策をするきっかけとなるマップをつくり、健康増進への寄与も含め「●みどりの中を歩き、走るきっかけづくり」をする。

例えば、千葉大学WGのエディブルウェイの取組みのように、自分のできる範囲で関わられるような「●みどりとふれあうプログラムづくり」をする。

2つ目は、4-2「みどりを学び、意識を高める取り組みを進める」とし、

①みどりに関する学習の推進 環境学習等の推進。

②みどりに関する普及啓発の推進 みどりと花の基金が行っている展示会や観察会、花苗の配布等。

③みどりづくりを支える仕組みの拡充 みどりの相談所等は実施しているが、千葉大学で行っている訪問園芸の取組みのような、ちょっとした困りごとに対応できる仕組みを想定。

3つ目は、4-3「みどりのシティープロモーションを展開する」とし、

①みどりに関する情報の発信 アンケート結果によるとみどりに関する市民活動等の市の取り組みの認知度は非常に低い。市内だけでなく市外に向けても情報発信していくことが重要。

②みどりを楽しむイベントなどの充実 みどりの再発見ツアーなど、今も行われている様々なみどりのイベントをより充実させていく。

事務局

ここに様々な施策を記載しているが、メリハリをつけるために最終的には重点P Jと新規内容は何らかの方法で色分けする。何を重点P Jとするかはこれから検討する。

会長

基本方針③の「③人材の育成」については、今は里やま入門講座と花壇づくりが中心で、活動中の団体の講習会というイメージだが、今回のフォーラムは育成というより発掘に力を入れて

いくものであり、みどりに関わりそうな潜在的な人や団体は存在すると思われるので、この項か 3-2「みどりの市民力のネットワークをつくる」に発掘・交流・連携の観点を入れたい。育てることは多くの団体が行っており、新しい担い手の育成として現在行っている講習会で育てていく観点と、例えば今まで全く発掘してこなかった回廊グループや利活用団体は今般発掘し意義を持ったところなので、そうした継続的発掘というところが大事かと思う。そんなニュアンスがあるとよい。

委員

私は地域の6次産業や農商工連携などをプロデュースして、いろいろな方々を連携させることをやってきたが、だれが連携をさせるかが最も重要。日本の農業分野で農商業連携や6次産業がうまくいかないのはプロデューサーがいないからで、人や団体をつなぐプロデューサーという目利きができる人材の育成が発掘にもつながり、プロデュースする人を例えば中間支援組織の中に入れていくのか、プロデューサーの育成や確保はとても重要なことで欠落すると成立しないので入れてほしい。

会長

プロデューサーはどのような機能をするのか。

委員

マッチング機能であり、A団体とB団体を取りあえずくっつけてみるような機能が必要。例えば経済産業省が以前行った産業クラスター政策では、全国各地でいろいろな異業種を連携させたが、極論で言えば成功したかしないかは、ちゃんとしたプロデューサーがいたかいないかによる。みどりの分野ではどのような感性なのか分からないが、例えばビジネス感覚のある方など目利き力のある人でなければ連携はさせられない。みどりではどのような人が当てはまるのかは検討の余地があるが、事業の構想・企画力のある人、能力の長けている人がプロデューサーとして1人いるだけで違ってくると思う。

委員

これまでは松戸の樹林地の維持保全を中心に行ってきたが、今後発展させたりネットワーク化をしていくには利活用にウェイトを置いていくことになる。利活用団体へのアンケートではほとんどの団体が緑地を利用したサービスを提供しているが、有償無償は別としてサービスに付加価値を感じてもらえるようなコーディネートやプロデュースが必要になってくる。この「維持」と「利用」の部分はどこに入るのか。基本方針③は「保全」で基本方針④が「利用」であるような印象はある。

会長

基本方針④の「4-1 みどりを生かした多様なライフスタイルを広める」や「4-3 みどりのシティプロモーションを展開する」に入るか。

事務局

利活用では基本方針②も考えられる。

委員

基本方針④の4-1の「①みどりの遊びの創造」については、人材の育成・発掘に関して、例えば里やま保全をイメージする「里やま入門講座」に「あそび」の文言を加え、「みどりのあそびの講座」で子育て中の親も参加する講座にして、森を使うきっかけとならないか。岡山市の「外遊びノート」やアンケートの「冒険遊び」があるように、そこを利用する人が担う程ではなく気軽に清掃程度の活動ができる、参加するきっかけとなる講座となればよい。「子どもと遊べる場所」「体験できる場所」とあるが、もう少し具体的に見える形として入れられないか。提供す

るというイメージが強いが、文言の中に参加へのきっかけのための何かを入れる。

会長

今の意見は実際にイベントに参加しながら親が興味を持っていくことと、外遊びを教えてくれるネイチャーゲームの指導者のようなものを育てていくという2つがあり、後者であれば里やまの保全や花づくりの場づくりに関する人材育成や発掘が中心であり、岡山市のように仕切る人がいる中で、子どもたちや若い親子がいろいろな活動に参加しながら次第にそこを担っていくような形にしていくと基本方針④に入るか。両方がどこかに入ると良いという意見か。

委員

里やま入門講座は担い手育成のイメージが強いが、内容のプログラムを切り分けてメニュー化し、種類の違ったものを入れてはどうかという意見で、今の親はSNSで情報発信していて、情報の出し方やプログラムもメニュー化しワンアクションで目的に着ける方法も良い。

委員

里やま入門講座の中に「あそび」や「保全」や「みどりを知ろう」があり、例えば「あそび」から「プレイヤー」につながる。両方が打ち出されると良い。

事務局

専門性で分けるということか。

委員

「里やま入門講座」に「あそび」の部門を設け、その講座では専門性というより気軽に夏の山での虫対策や、木と木をつなげて遊ぶ方法やどんぐりを使った工作のような身近なことを経験しながら、いつの間にかそこで「あそび」の提供ができる人になる。その人は自分の子どもやその山に来た他のファミリーに「あそび」の提供をできるようになり、結果的にスキルが身につき、人から人に継承される。

委員

山では安全が確保されていて、子ども連れの家族が自由に動けるほうが楽しめるのではないかな。根木内歴史公園で虫の観察会をはじめた14年になるが、当初は虫に詳しい方による勉強会のように子どもが小さくなってしまった。先日開催した観察会で、虫を取れなくて泣く子どもや奇声を上げながら捕まえる子どもたちがいて、自然の中で自由に虫を取る楽しみを味わっていたのを見て、それができる場を提供することがよいのではないかと感じた。おじいちゃんが初めて4歳の孫を連れてきたものの、孫は途中で帰りたくなり離脱したが、これをきっかけに次の機会につながるかもしれない。松戸のこのようなみどりの場を守りつくり上げていくことが大事かと思う。

会長

里やま入門講座や花壇づくりでもいろいろなイベントで子どもとのふれあいがあり、その工夫をしているが、「里やま入門講座」のタイトルからは「森」の管理の考え方や管理技術、「花」であれば栽培技術のハウツーのように感じるが、表現の仕方は分からないが「ふれあい方」や「きっかけ」をどうやってつくるかの部分を入れられないか。以前みどりの行動会議で幼稚園の先生を森に連れてこなくても、園庭に散る落葉で遊び方を教えられる先生がいればよいのではという話があり、身近な人が「ふつうに」「ちょっと」遊びのきっかけをつくれるようなやり方はある。

委員

「外遊びノート」にもあるように、みどりのあそびの創造では遊んでいる人も共に創造をしなければいけない。

委員

例えばステップアップ講座ではチェンソーの技術習得などを行っているが、里やまボランティアの200人のメンバーの中にはネイチャーゲームができたり、森にある材料でいろいろなものを即座につくれるような、森で楽しむ方法を熟知している埋もれた人材が多い。プロデューサーの存在により、そんな人材を配した遊びの講座はできる。

小嶋委員の森で大木を切った時、これは滅多にあることではないので、みんなを呼んできてイベントにすべきだと思った。危険も伴うが子供にも一緒に見てほしかった。きちんとしたイベントにして、こんなことが松戸の森で行われているということを広める効果も必要だと思う。

会長

前段の話は大切で、「オープンフォレスト in 松戸」の森の文化祭ではいつも驚かされる。「緑と花のフェスティバル」で売られている「もの」もすごいと思っていた。いろいろな関わり方がある。

委員

みどりとふれあうイベントに植樹祭を是非加えてほしい。松戸市内で植樹祭をする場所があるのかと言われるかもしれないが、流山市では流山インター近くの多目的広場の周囲に幅5m位の植栽をする時に市民を巻き込んで行った。例えば今後松戸市でも松戸中央公園がリニューアルされるのであれば、その時に市民も巻き込んだ植樹祭を行えば、参加した市民はみどりを大切にするであろう。新しいみどりの市民力になるよう期待を込めて植樹祭ができれば良い。

会長

外環の関係で植樹祭を行ったことがある。

委員

それは大々的に行ったのではなかった。もっとイベントとしてPRして行えば松戸市のみどりへの理解も深まる。

会長

松戸市では柳原水閘で近くの江戸川の土手で行った桜の植樹や柏市の大堀川ように、アダプトの仕組みで行うのか。単純な植樹会なのか。

委員

流山市で行ったのは密に植える方法で、柳原水閘は間隔を空ける方法でやり方はいろいろある。自分が植えたということが大事で、木の成長を見ることでみどりへの愛着が深まり、さらに生き物へと広がる。全国で行われている植樹祭を松戸市でもやった方が良い。

委員

基本方針③にある「表彰制度」については数年来議論が行われ、趣旨には自身も大賛成だが書きっぷりについて切り口をもっと捻りたい。「表彰制度」は市民の受取り方には疑問符が付くことも考えられる。実施の要領としてインスタのワンショットで「誰がトップになるか」といった参加型や新たなバリエーションを持たせればライフスタイルや全員参加型につながるのではないか。ソサイエティ5.0にひっかけるわけではないが、多文化共生や地域コミュニティを大切にしている大きな流れと共に、外国人を含めた新住民を取り込める間口や仕掛けの余地を考えていきたい。

会長

緑推進委員会で松戸市緑の大賞を議論のした時は、みどりの「功成り名を遂げた」ことに対する表彰は市の表彰の対象となるイメージで、「みどりの回廊」のような新しい動きの奨励や、提案制度、コンペを行うことを奨励する意味合いが最終的には強くなっていった。企業との連携

では企業の冠を付けたり、スポンサーになってもらえばよいという話だった。

多文化共生については、広報上では松戸市は力を入れているようだがどのようになっているか。重要な観点であり、実際「みどりの回廊」グループにも留学生が多い。多文化共生の動きは調べてほしい。

事務局

先日のみどりのフォーラムで話をしたが、広報まつど紙上に「常盤平の桜並木の紹介」を外国人がレポートして日本語と英語で記事を載せた。

委員

基本方針④にある「みどりのあるライフスタイルの紹介」は非常に重要だと思っている。ライフスタイルを市民がイメージできるように、イメージ戦略は時間をかけてつくっていくことが必要だと思う。つくり手側がつくり手本位のものをつくり買い手を見つけることを「プロダクトアウト」というが、人それぞれの「私の考えるみどりのライフスタイルはこうです」をマンスリーでSNSなどを使い発信するような、プロダクトアウトの考え方で自分たちの世界観をどんどん出していくことで1つのライフスタイルができていく。先ず委員が登場して「私のみどりのライフスタイル」を1枚のチラシとしてPDFにしてSNSやフェイスブック、インスタ上にあげて簡単に紹介する。それを時間をかけて積み重ねていくとおもしろい。

委員

インドネシアの観光誘致の手段で、フェイスブックを使って写真ワンカットと説明300字で観光地紹介をしており、次々と継続的に投稿されていて面白い。

会長

前回の議論で、SNSをしっかりとやるのは大変で全体をコーディネートできる人が必要だという意見が出された。それでも、それぞれの価値観、ライフスタイルを目に見える形で表に出すことは必要か。

委員

継続してやることで1年2年経った時に、ワンランク上のみどりがこうであるとみんなに認知されると思う。

委員

ふるさと森の会の小嶋委員から樹林地保全についての意見書が提出されて、なかなか難しいと改めて思った。基本方針③と④のみどりの市民力やライフスタイルを絡めていくときに、苦情対応と考えると非常に小さくなってしまう。みどりに対して全く関心がないかネガティブに感じている人の意識を少しでも高めていく取り組みが必要ではないか。公園に関しては公園周辺のまちづくりやエアリアマネジメントの話が出てきているが、樹林地に関心のある参加者は地縁に縛られることなく訪ねてきているが、近隣住民の理解の有無で木を切らざるを得ないことになってしまう。最後にみどりのエアリアマネジメントと記されていることは良い。森のエアリアマネジメントのような施策が入れられると良い。その中に早い段階から地域住民にも森をこうしていきたいということを知ってもらい理解者を増やしていけるように、森だけを見るのではなく、地域住民への情報提供が重要だと思う。現在はオープンフォレストの宣伝も含め、情報提供はどのように行っているのか。

委員

オープンフォレストは最も重要で、森を訪れた小さな子供に対して、里やまボランティアのメンバーが草木染めや昔のあそび、竹細工を体験させている。最近も特別体験で中学から大学生までの十数名が森を訪れたが、そういうことを契機としてリピーターになり、その後ボランテ

ィアになった人や、オープンフォレストに来てその後ボランティアになった人もかなりいる。間口を広げたオープンフォレストが有効。各森でいろいろな技術や経験を持ったボランティアがいて、一緒に連携すればいろいろな体験ができるのではないかと。

会長

おそらく森の活動は広報等で自治会と連携しているが、街づくりや地域づくりとの絡みまでにはいっていない。これまでの里やま入門講座の受講生はグループをつくり活動をしているが、森を保全するというテーマに対する講座があり、それを受講した卒業生は役所から仲介された森で活動することになると、住まいの近隣の森で活動している団体はそう多くはない。地域の人がメンバーに加わっていなかったり、地主が近くに住んでいないと、地域とどう結びついていくは大きな課題となる。

委員

秋山の森で会員が近隣にタケノコを配ったところ、それを茹でるための大きさの鍋が無い、茹で方が分からないという話があった。

松戸みどりのフォーラムのイメージ図は、みどりに関わるグループだけのネットワークが描かれているが、これまでの意見ではここから飛び出したいという意見だった。この概念を多層的にしていくのか。

会長

団体を特定する必要はない。

いい議論ができていていると思う。今日の審議はここまでとする。

—— 傍聴人退室 ——

連絡事項

松戸みどりと花の基金事務局長

日頃よりの基金の活動に対してご理解ご協力いただきありがとうございます。

資料：あさがお展

開催日時：8月16日（金）～20日（火） 午前8時30分～午前11時まで

場所：松戸市営金ケ作育苗圃（住所：金ケ作246番地）常盤平北口に案内版あり徒歩約12分是非来場ください。

みどりと花の課

みどりの行動会議とみどりと花の課で毎年行っている「七夕プロジェクト」のご報告をさせていただきます。6月26日にみどりの行動会議、里やま応援団の有志の約10名のご協力をいただき、秋山の森から31本の竹を切り出し、放課後児童クラブ27箇所に配布を行いました。放課後児童クラブで行われている七夕まつり後に、お礼のお電話やお手紙をいただいたのですが、子供たちが毎年楽しみにしていることはもちろん、子供たちをお迎えに来る保護者の方々もお願い事が書いてある七夕飾りを見て、喜ばれていたとのこと。平成25年から始め7年になりますが、毎年好評得ており手ごたえのある取り組みだと感じております。

会長

次回の委員会日程は9月27日（金）午後3時から新館5階市民サロンにおいて開催する。

短い時間の中で言い尽くせない部分もあると思う。何かあれば事務局まで意見を出してほしい。

これで本日の委員会は終了する。

以上